

背景・課題

【背景】

我が国では医療費の増加を背景に、**軽症疾患におけるセルフメディケーションの推進が重要な政策課題**となっている。花粉症や乾燥肌、消炎鎮痛、ドライアイ等はOTC医薬品で対応可能なケースも多いが、医療機関受診が継続される場合がある。近年は、こうした医療行動の意思決定において**ヘルスリテラシーの重要性**が指摘されている。

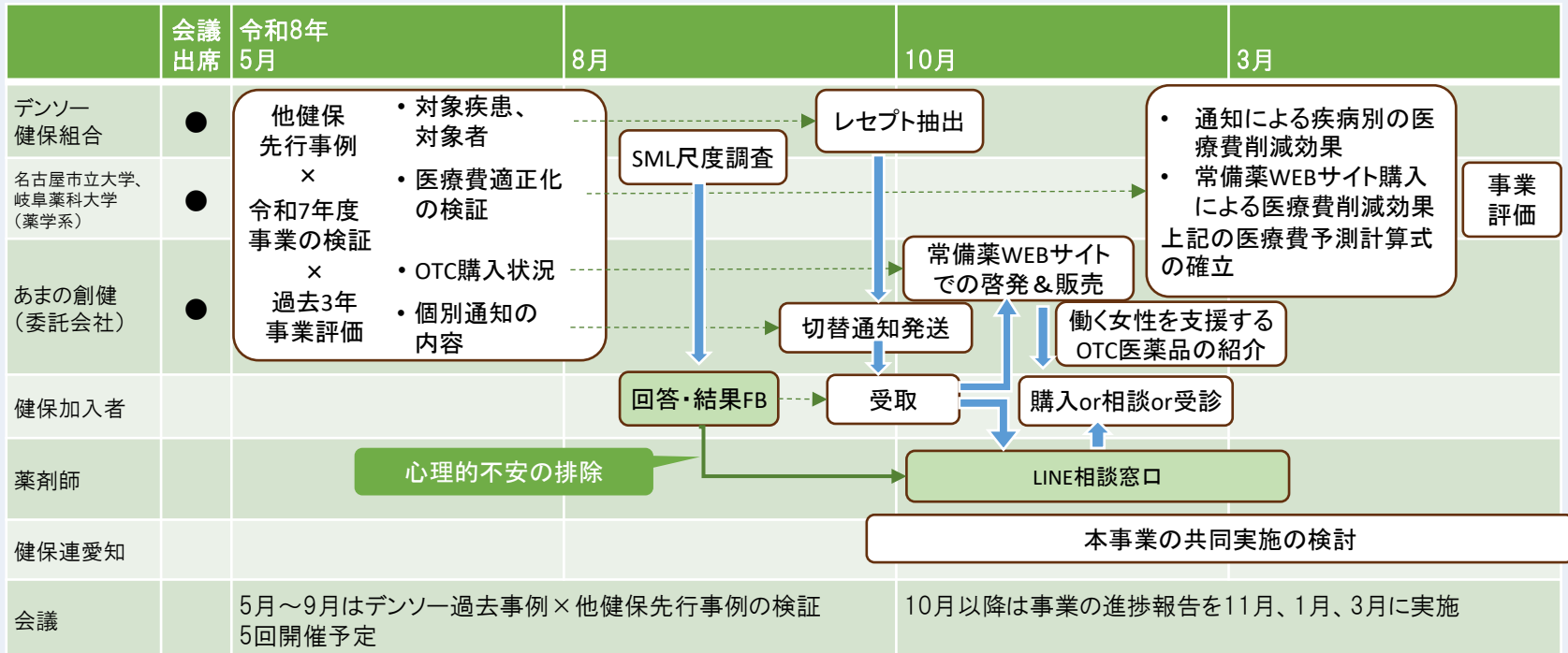
【課題】

デンソー健康保険組合では、レセプトデータを用いたOTC類似薬からOTC医薬品への切替促進(個別通知・費用補助)を実施してきたが、**購入率は2～6%に留まった**。これは**情報提供や価格インセンティブのみでは行動変容が十分に生じない**可能性を示唆している。セルフメディケーション推進には、**ヘルスリテラシーや心理的不安など意思決定要因への対応が課題**となっている。また、OTC医薬品購入には性別差が見られる可能性もあり、**女性の健康課題への対応**も含めた取組が求められる。

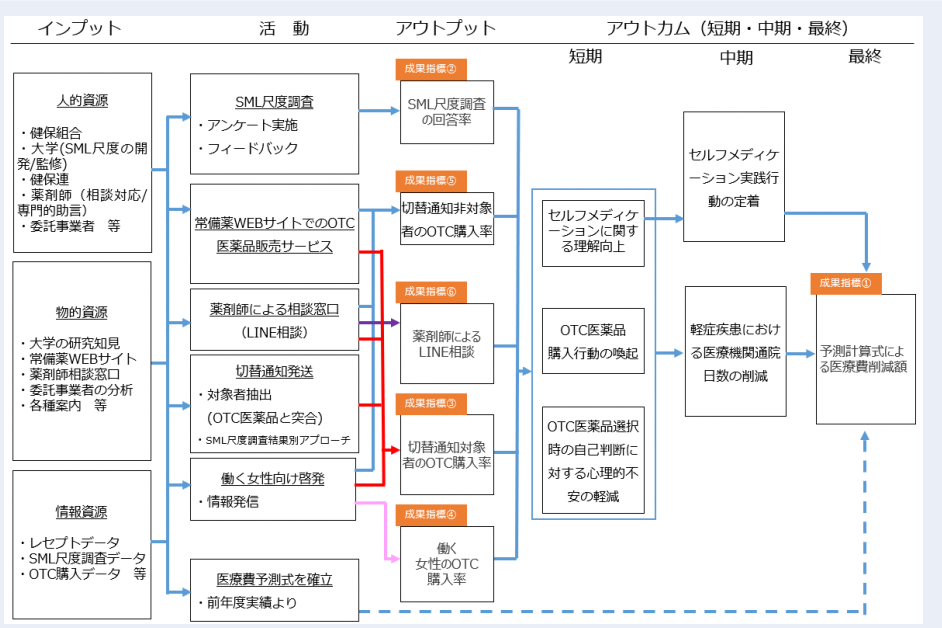
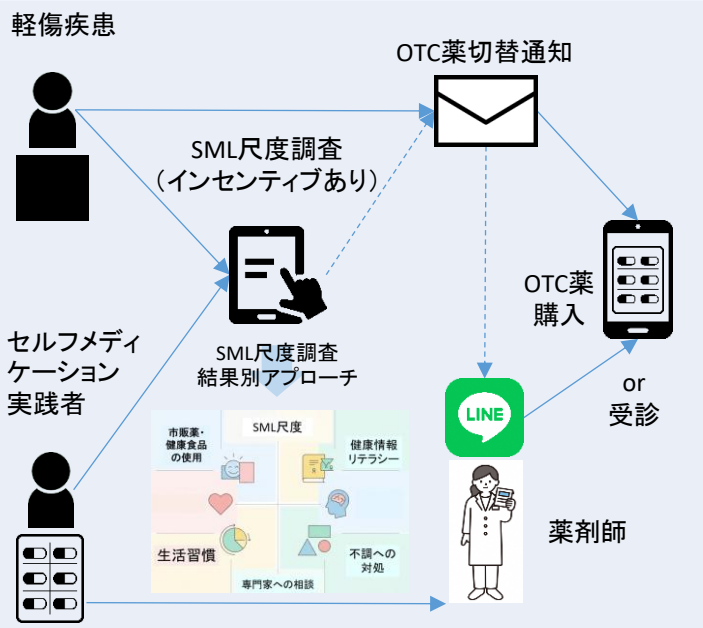
目的

本事業は、名古屋市立大学が開発した**適切なセルフケア・セルフメディケーション尺度を利用した意識調査(以下SML尺度調査)**を活用し、健保加入者が自身の健康情報理解力や医療行動特性を可視化する機会を提供する。その結果に応じたOTC医薬品選択支援メッセージや薬剤師相談導線を整備し、軽症疾患におけるセルフメディケーション行動の促進を図る。これにより、**医療機関受診を唯一の選択肢とする心理的傾向からの段階的な行動転換を支援**する。あわせて、OTC医薬品の利用行動および医療利用行動への影響を検証する。

概要・スキーム・役割・スケジュール

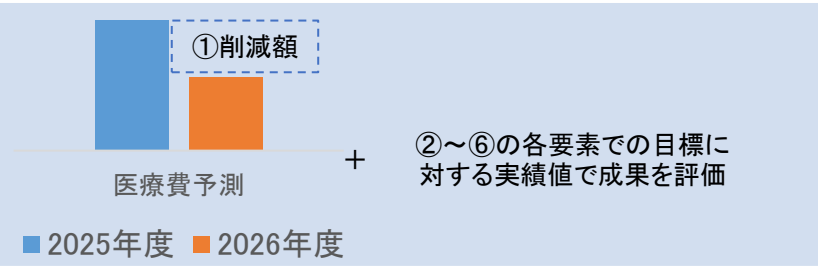


事業内容・ロジックモデル



指標・成果

- 成果指標①：予測計算式による医療費削減額  
(2026年度事業効果-2025年度事業効果にて算出)
- 成果指標②：SML尺度調査の回答率
- 成果指標③：切替通知対象者のOTC購入率
- 成果指標④：働く女性のOTC購入率
- 成果指標⑤：切替通知非対象者のOTC購入率
- 成果指標⑥：薬剤師によるLINE相談



成果指標及び支払条件

最終成果の成果指標①は上限、下限額を決めて、削減に応じた支払い。成果指標②～⑥は下記目標値に対する対価を支払う。

No	成果区分	評価指標	対象	成果報酬の考え方
②	中間成果① (理解)	SML尺度回答率	全加入者	加入者が自身の医療行動・特性を理解したかの到達度・理解促進施策として評価
③	中間成果② (行動)	切替通知対象者のOTC購入率	切替通知対象者	切替通知+リテラシー別・推奨による行動変化・切替施策の直接効果
④	施策別成果①	働く女性のOTC購入率	切替通知対象女性	女性向け特別啓発の上乗せ効果・重点施策として独立評価
⑤	施策別成果②	切替通知非対象者のOTC購入率	切替通知なし群	全体的なSM行動底上げ効果・切替以外の波及効果
⑥	安心の担保	薬剤師LINE相談窓口の認知・相談率	切替通知対象者	医師に代わる判断の受け皿が機能したか・利用率が低くても「存在」が価値